

令和元年度 大阪学院大学高等学校 学校評価

1 めざす学校像

《教育方針》

本校は、開校以来、学校法人大阪学院大学の建学の精神である『視野の広い実践的な人材の育成』を理念として、将来、高度な専門分野へ導くために、高校時代に身につけておかなければならない「現代社会に必要な基礎学力の習得」に主眼をおいた教育を行うとともに、人格の基礎をつくるしつけと情操教育に加え、一人ひとりの個性や能力を尊重した教育を目指している。

《特色》

本校は、学校法人大阪学院大学の高等学校教育部門で、迫りくる社会生活への対応能力や人間性を高めるうえで、重要な役割を担っている。本校の大きな特色は、大学院を擁する9学部（短期大学部を含む）からなる大阪学院大学と3つの専門学校（関西経理専門学校、関西健康・製菓専門学校、関西医科専門学校）で構成されているASTカレッジが併設されており、幅広く社会に対応出来る進路が確保されていることである。高等学校と併設大学での7年一貫（短期大学部は5年一貫）教育、高等学校とASTカレッジでの5年・6年一貫教育を実現することは、「チーム大阪学院」として胸を張って生き生きと人生を謳歌してもらえるようなシステムといえる。このような高大連携・接続は他校にはまねのできないことと自負しており、本校の大きな強みである。本校は、この学校法人のシステムを活用して次に示すような特色づくりを行っている。

【教学面】

本校独自の取組として、毎週土曜日を総合学習の一環として、「SC(サタデーチャレンジ)」を行っている。このSCとは、文部科学省が設定している教科・科目ではなく、各コース（普通・特進・国際・スポーツ科学）でそれぞれ特色ある取り組みを行い、生徒自身が能動的に取り組めるように創意工夫がなされている。

この取り組みに関しては、併設大学のキャンパスを利用して行うことがメインであり、これも他校ではまねのできないことと自負している。

【生活面】

毎朝、全教員が最寄駅からの通学路および正門等に分散して、生徒の登校を見守るようにしている。このことにより、生徒の表情の変化や、体調などを事前に把握しやすくなり、また挨拶を行うことにより、生徒との距離も縮まり関係構築に役立っている。

社会に出て必要また信頼される人材になるためには、「時間を守る概念」を定着する必要がある。そのためには、次に起こることを自分自身が予測し行動する力が必要である。本校では、昨年度より始業1分前に、校歌を放送で流して始業の心構えを持って授業に取り組めるようにしている。

【学校活動】

本校では、学年・性別など関係なく、「愛校心」を育むために、全校をあげて生徒の取組を応援している。その一つとして、各クラブでの活躍を全校朝礼時に紹介し、生徒・教職員でその健闘を称えている。また、全国大会の予選や全国大会出場の際も、バスに分乗して応援に駆け付けるようにしている。このように本校の生徒が、自分自身の関心がないことに対してでも、全力で何かに取り組んでいる仲間たちを応援することによって、他人を思いやる気持ちや、努力の尊さを感じ取って、他者を認め尊敬の念を抱けるように生徒を教育している。このことにより、生徒だけではなく、本校教職員や保護者にも連帯感が生まれてくる。

2 中期的目標

1 学習指導について

- (1) 授業開始時間を厳守する。
- (2) 授業中の態度の改善
- (3) 基礎学力の定着と向上
- (4) 成績不良者、低学力者などに対する指導を徹底する。

2 生活指導について

- (1) 遅刻者数を減少させる。
- (2) 携帯電話の使用・携行品指導を徹底する。
- (3) 処分者数の減少に努める。

3 進路指導について

- (1) キャリア教育を推進させる。
- (2) 高大接続の深化に取り組む。

4 人権教育について

- (1) 各学年別に学外講師を招き、講演会を実施する。
- (2) 全校生徒に人権に関連した映画鑑賞を実施する。
- (3) 学校生活やいじめについて調査をし、より良い学校生活ができるよう取り組む。

5 保健について

- (1) 健康診断後の、精密検査・再検査未受検者を減少させる。
- (2) 保健室の利用状況を把握する。
- (3) 保健だよりを定期的に発行する。

6 施設・設備について

- (1) 校舎の耐震に対する対策を検討する。
- (2) 教育環境の充実に努める。

【自己評価アンケートの結果と分析】

自己評価アンケートの結果と分析 生徒アンケート [令和元年 12 月実施分] 教員アンケート [令和 2 年 1 月実施分]
--

○生徒アンケート

「教育活動全般に関わる質問調査」 令和元年 12 月実施
 全校生徒に対し、別紙 23 項目について無記名による回答として実施した。
 ※アンケート結果については別紙にて報告。

アンケートの結果としては、例年と大差のない結果となっているが、「9. 本校の事務室は、証明書や奨学金等事務手続きについて、的確かつ丁寧に対応してくれていると思う。」、「21. 本校は、校舎や校庭、グラウンドなどの施設設備が整っていると思う。」、「11. 本校は基本的な生活習慣の定着や社会のルールを守ることをしっかり指導していると思う。」、「21. 本校は、校舎や校庭、グラウンドなどの施設設備が整っていると思う。」、「22. 本校でこれからも長く付き合い信頼できる友達ができ。または、出来るだろうと思う。」については、肯定的評価（アンケート結果で「そう思う」、「おおむねそう思う」の評価）が 70%を超えており、他の項目と比べて高くなっている。また、「16. 校外学習」や「17. 球技大会」、「18. 体育大会」、「19. 文化祭」等の学校行事に対する項目や「12. 本校は生徒の健康や安全、命の大切さに関する指導をしっかり行っていると思う。」、「23. 本校で充実した学校生活を送っている。」等についても、肯定的評価が比較的高くなっている。

一方で、「6. 本校には分かりやすい授業を行ってくれる先生が多いと思う。」や「7. 本校には各教科の基礎・基本の習得を図り、進路実現に対応できる学力を身に付けさせてくれる先生が多いと思う。」という授業に関する項目や「10. 本校には自分の成長に効果があると思える取り組みが多いと思う。」、「13. ホームルーム活動では、生徒が自主的に取り組み、互いに協力して活発に行っていると思う。」という将来の進路設計等、生徒本人に関する項目については、全体的に肯定的評価が低くなっている。

○教職員アンケート

「自己（授業）評価」 令和 2 年 1 月実施
 全教員に対し、別紙 24 項目について無記名による回答として実施した。[有効回答数は 94 名]
 ※アンケート結果については別紙にて報告。

自己（授業）評価の考察を行うにあたり、回答の中で「全くその通り」「どちらかと言えばその通り」の回答を肯定的評価として考えると、全 24 項目中 13 項目で肯定的評価が 80%を超えている。

特に、「8. 生徒の理解を促すように、発問や板書を工夫している。」、「10. 授業内容に関する生徒の質問については十分な対応をしている。」、「11. 生徒とは授業および他の活動の中で、十分にコミュニケーションをとっている。」、「19. いつも授業にふさわしい雰囲気づくりを心掛けている。」の 4 項目については肯定的評価が 90%を超える結果となった。

一方で、「7. 小テスト等を適宜行い、生徒の理解度や到達度の把握に努めている。」、「13. 生徒は、予習・復習等の家庭学習にしっかりと取り組んでいる。」、「16. 生徒は授業に関する発問や課題に対して積極的に取り組んでいる。」、「17. 生徒は年次に応じた進路意識をもって学習に取り組んでいる。」、「18. 生徒は授業で学んだことから更に意欲・関心を深めている。」の 5 項目については、肯定的評価が 60%を下回った。

○保護者

本校では、教育活動の充実や行き届いた生徒指導を行うため、学校と保護者が緊密な連携をとり、本校後援体制のより一層の強化を図ることを目的として、平成 16 年度から後援会組織と協力の上、保護者の学級委員を各クラスから選出し、同委員取りまとめによる保護者のクラス会を開催している。クラス会では、保護者同士の親睦を図ることを前提として、色々な場面や雑談の中で出てくる意見などを同委員が取りまとめ、これを学校と後援会組織で検討し、可能なものは前向きに対応していくという形式を取っている。これは、保護者皆様が不安に思っていることや生徒指導上の問題点等の早期解決と学校のより良い方向性を見出すことに役立っている。

クラス会で出た意見等に関する対応状況の報告会は毎年行っており、今年度は令和 2 年 1 月 25 日（土）に開催し以下の項目に関する報告を行った。

- ・ 内部進学（併設大学）に関する事について
- ・ 進路の幅を広げて後押ししてほしい。
- ・ 英検の推進とそれに関する補習をお願いしたい。
- ・ 保護者だけの併設大学見学会を開催してほしい。
- ・ 配付文書に関する事について
- ・ 地震等、災害発生時の授業に関する連絡方法について
- ・ 制成品や服装規定に関する事について 等

学校関係者評価委員会からの提言

平成 30 年 9 月 11 日（火）11：00～13：15 本校第 1 会議室にて開催

1. 学校評価について

- (1) 学校評価を拝見して、先生方のご苦労が非常に感じられる。多様な生徒さんも増えて来られ、郊外の小学校では 1 クラス 15 名～20 名の学校も増えていると聞くので、1 クラス 40 名と聞くと担任の先生も大変だと思う。
- (2) スポーツの盛んな学校ではあるが、普通クラスでは運動部と文化部、またクラブに所属をしていない生徒たちが、体育大会や文化祭など、クラス単位で非常に良くまとまって楽しく活躍されている印象があり、そのあたりも学校の好印象につながっていると思う。
- (3) 高大連携の部分では、学校評価に示されている学校の特色が十分に生かされていないように感じるので、今後は更に特色をアピールする必要がある。
- (4) 併設大学のアピールをもう少し頑張っていたきたい。生徒も保護者も併設大学入学後に初めて知ることが多くあるので、そのあたりを在校中にもう少し詳しく教えていただけたら、併設大学への進学者も増えると思う。
- (5) 併設大学へ内部推薦で進学する場合は、他大学へ進学する生徒と比較して受験勉強の負担が少なくなるので、親としてはその時間を自分の将来やりたいことに有効的に使ってもらいたいと思っている。
- (6) 高校から大学に進学し、大学卒業後の就職に至るまでをもう少し明確に示してもらえれば、生徒たちも大学を選びやすいと思う。
- (7) 学習面について、成績不良者や低学力の生徒への指導について、先生方にはご負担をお願いする事にはなりますが、保護者の立場として、補習や居残り勉強など引き続き力を入れてもらいたい。
- (8) 毎年単位を落とす生徒がいるとのことで、今までもいろいろ考えられていると思うが、また理由にもよりますが、単位を落とさせないような方策も考えていただく必要がある。

2. アンケート調査について

- (1) いろいろ質問調査を行われているが、相対的に見させていただいて肯定的な評価が全体の60%を切るか切らないかがひとつのガイドラインであるように感じた。
- (2) 生徒アンケートにおいて、学年が上がるたびに肯定的な評価が下がる項目がいくつもある。特に質問6や質問10などは、2・3年生では50%を下回っているので、そのあたりを重点的に取り組んでいただき、肯定的な評価（生徒の満足度）が上がっていくように考えていただきたい。
- (3) 教員アンケートにおいても、評価のバラつきが非常に目立つ。こちらの肯定的な評価が低い項目については、改善するように考えていただけたら良い。No.13などは、肯定的な評価が15.1%しかないので、この項目を含め、特に低い項目については、積極的に取り組んでいただき、生徒と先生方との相互理解に努めていただきたい。

3. その他

- (1) 併設大学があるメリットを生かして、海外留学のような形の大学体験入学のような取り組みを行えないか。
- (2) 全体的におとなしい生徒が多い。また生徒の多くが我々にもきちんとあいさつをしてくれるのでとても気持ちがいい。これは日頃の先生方のご指導の賜物だと感じる。
- (3) そのことは、他の皆さんからも聞いていて、良い印象を持っている外部の方も多し。またクラブ活動が盛んだが、クラブ生以外の生徒たちの居場所も作っていただけており、うちの子供も先生方にいろいろ助けていただき、無事に卒業ができた。
- (4) 在学中に併設大学からの情報が少ない。保護者会の時に説明ブースを設けているが、かしこまった場所では話しが聞きづらい。学院祭の時などにも説明ブースを設けていただければ、もう少し話しを聞きやすい雰囲気になると思う。1学期の保護者会時に、エレベーターホールにブースがあり、話しが聞きやすい感じがした。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導について	(1) 授業開始時間を厳守する。	(1) ア 各教員が始業チャイム前には教室に入室する。 イ 授業の重要性や時間を守る大切さなどを説明指導する。	(1) アイ 教員が、始業チャイム前に教室に入室できていたか。 アイ チャイムと同時に授業を開始できていたか。	(1) [○] アイ 多くの教員が始業チャイム時には入室できていたが、全教員が入室できる努力が必要である。 イ 2学期以降、1年生で授業の準備が疎かになることがあった。
	(2) 授業中の態度の改善	(2) ア すべての生徒が、すべての授業に前向きに取り組む姿勢を養う。 イ AL、探究学習等を取り入れ、授業内容を充実させる。 ウ 担任や教科担当教員が授業の重要性などを根気よく説明指導する。	(2) 生徒アンケートの質問20「教室内の雰囲気、環境は快適であると思う。」の肯定的評価が70%以上。	(2) [△] アウ 授業中の巡回を増やして効果がみられたが、教科担当教員とのさらなる連携が必要。 イ 研究授業、公開授業が増え、吹田市と連携しての授業展開や企業探究への取り組みもみられた。次年度は、ICTをさらに積極的に活用し、新しい教育を進めていく必要がある。
	(3) 基礎学力の定着と向上	(3) ア ICT教材の導入で、学習習慣をつける。 イ 宿題を定期的に出して、家庭学習時間を増やす。 ウ 苦手単元などを振り返り、取り組ませる。	(3) アイ 宿題を定期的に出すことができているか。 アイ 宿題の取り組み状況がよくなっているか。 ウ 学習への取り組みがよくなっているか。	(3) [△] アイ ICT教材を用いた宿題配信を行い、一定の効果はあったが、提出しない生徒に対して、最後まで取り組ませる仕組みを検討する必要がある。 ア スタディサプリの内容を定期考査に取り入れる科目が出てきているがまだ不十分であり、さらなるスタディサプリの活用が課題である。 イウ 取り組み状況の良い生徒に対しての声掛けを継続する必要がある。
	(4) 成績不良者、低学力者などに対する指導を徹底する。	(4) ア 各教科担当者が、成績不良者を出さないという姿勢で指導する。 イ 該当生徒には積極的に声をかけ、理解度を把握し、丁寧な指導を心がける。	(4) 各学期の欠点者の人数が減少したか。	(4) [△] ア 上級学年の欠点者の人数が増える状況を防ぐことができなかった。 アイ 放課後の定期的な強制補習の検討が必要である。

2 生活指導について	<p>(1) 遅刻者を減少させる。</p> <p>(2) 携帯電話の使用・携行品指導を徹底する。</p> <p>(3) 処分者の減少に努める</p>	<p>(1) ア 昨年に引き続き、遅刻者には生徒手帳のカレンダー欄に遅印のハンコを押す。</p> <p>イ 遅刻をしてきた生徒には、遅刻理由を尋ねるとともに、遅刻常習の可能性を感じた生徒に対しては、本人の生活習慣を教員とともに振り返ることで防止に努める。</p> <p>(2) 携帯電話の使用方法や指導については、教員が共通認識のもとで柔軟性ある指導を行う。</p> <p>(3) 生徒に対しては、オリエンテーション時、各学年ごとに注意を呼びかける。 また、定期的に行われる全校朝礼でも注意を呼びかける。</p>	<p>(1) 全体の遅刻者数を昨年度より1割以上減少したか。</p> <p>(2) 携帯電話の預かり指導件数が減少したか。</p> <p>(3) 昨年より処分者数が減少したか。</p>	<p>(1) [×] R1 延べ遅刻者数 5,810名 (+1,545) [H30 延べ遅刻者数 4,265名] 昨年まで遅刻者は、学年が上がるにつれて増える傾向があったので、3年生を中心に指導を強化した。その成果もあり、3年生だけを見れば昨年度より遅刻者数は減少した。 しかし、1・2年生の指導が徹底できず、全体で3割の遅刻者増となってしまった。 目標達成のためには家庭との連絡を密に取りながら、生徒に対して根気強く指導することが必要である。</p> <p>(2) [×] R1 指導件数 119件 (+26) [H30 93件] 携帯電話の使用に関する規則は浸透してきたので、学年が上がるにつれて指導件数は減少した。しかし教員間の指導に関する温度差が課題として残った。</p> <p>(3) [○] H30 73件 → R1 63件 SNS関係の処分者数が、0名から7件と増えたので、次年度は今まで以上に全教員でトラブル回避のために注意喚起と対策を行う必要がある。 また、授業関係の処分者数は12件から8件と減少した。引き続き校内巡回や注意喚起を行い、処分者数をさらに減少させる必要がある。</p>
---------------	--	--	--	---

<p>3 進路指導について</p>	<p>(1) 基礎学力の向上</p> <p>(2) 高大接続の充実</p> <p>(3) キャリア教育の推進・充実</p>	<p>(1) 第1・2学年 オンライン授業を活用し、生徒自身が自主的に目標を持って学習する。</p> <p>(2) ア 2・3学年 希望者ならびに併設大学内部進学予定者に対し、課外の時間を利用して併設大学の特別科目履修を実施する。 ※これは大学生に交じり大学の授業を受けるものであり、単位が認定された場合、併設大学の卒業要件単位数に計上することができる。</p> <p>イ 3学年 併設大学教員との交流の場となる「語り場」を実施</p> <p>ウ 2学年 「夢ナビプログラム」の実施・参加</p> <p>(3) ア ホームルームや総合の授業において、大学・専門学校の広報担当者による進路ガイダンスを各学年の状況に応じて実施する。 第1学年 将来の就職を考えて 第2学年 学部・学科について 第3学年 各大学の特色について</p> <p>イ 手作り教材等を通じて、進路決定と将来の目標や働くことの意義を理解させる。</p>	<p>(1) 受講のチェック・到達度テストの実施</p> <p>(2) ア 受講者の成績及び内部進学率 イ 生徒の満足度と大学教員の評価と内部進学率 ウ 内部・外部の進学率が上昇したか。</p> <p>(3) ア イ 大学・専門学校・就職などの進路を主体的に決定できたか。</p>	<p>(1) [△] 年度前半は生徒も熱心に取り組むが後半になってくると減退してくる。担任・教科担当の細かなチェックと丁寧な指導が必要である。</p> <p>(2) [○] ア 過去数年間の中で最も受講者が多く、単位修得率が高かった。 イ 概ね好評であった。時期・内容の精査を行い次年度も実施したい。 ウ ※併設大学進学者数と進学率 R1 167名 47.0% (H30 158名 36.2%) ※大学・専門学校進学率 R1 93.2% (H30 91.1%)</p> <p>(3) [△] 進路に対する姿勢や考え方が前向きになってきた。今後は講演会などの実施に加えて職場体験が実施できるように計画を立てていきたい。 ※今年度使用した教材 手作り教材「進路のしおり(合格体験記)」</p>
-----------------------	---	--	--	--

<p>(1) 各学年別に学外講師を招き、講演会を実施する。</p> <p>(2) 全校生徒に人権に関連した映画鑑賞を実施する。</p> <p>(3) 学校生活やいじめについて調査をし、より良い学校生活ができるように取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1学年については、高校生になり携帯やネットでの友人関係の構築がはじまることから、インターネットやSNSに関する講演を行い、講演後にはアンケート・感想文を実施する。</p> <p>イ 2・3学年においては生徒の成長に合った課題として、自分を大切にすること、他人を大切にすることの必要性を考えさせることを目的とする。講演後には、アンケート・感想文を実施する。</p> <p>ウ 教員対象の講演会では、発達障害のある生徒についての知識や対応法を学ぶ。</p> <p>(2)</p> <p>実施後には感想・アンケートを実施することで、内容が定着し生徒の印象に残るように努める。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校生活・人権などの意識調査を2回実施する。(1学期と2学期に各1回)</p> <p>イ 調査結果を活用するため、いじめ防止委員会および教員対象の勉強会を開催し、全教員でいじめと不登校の防止に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>各学年の課題に応じた適切な講演者を選定し、講演会を実施したか。</p> <p>(2)</p> <p>人権に関する映画鑑賞の実施と実施後の感想が好評であったかどうか。</p> <p>(3)</p> <p>教育活動全般に関する質問調査の質問23「大阪学院大学高等学校で充実した学校生活を送っている」の肯定的評価が60%以上。</p>	<p>(1) [○]</p> <p>ア 1学年 開催日：2019年6月17日(月) 内容：「インターネットと人権について」 講師：大阪法務局人権擁護部</p> <p>イ 2学年 開催日：2019年7月13日(土) 内容：「互いのところとからだを尊重しよう」(デートDV防止対策) 講師：伊田広行氏(立命館大学 非常勤講師)</p> <p>イ 3学年 開催日：2019年11月16日(土) 内容：「性的マイノリティ(LGBT)についての知識を学ぶ」 講師：川西寿美子氏(NPO アガミックハラスメントをなくすネットワーク NAAH 理事)</p> <p>ウ 教員対象 開催日：2019年12月13日(金) 内容：「発達障がいのある生徒への対応」 講師：植木祐美子氏(大阪府高槻支援学校・大阪府リーディングスタッフ・指導教諭・特別支援教育士)</p> <p>本校でも携帯電話(SNS等)などの間違った使用による生活指導の案件が増加しており、今後も1学年時にしっかり指導を行う。 2・3学年においては、今後は講演以外でも各種資料を配布し、生徒の自覚を促す。 また、教員対象研修会も定期的に実施し、今後とも教員の勉強ならびに心のケアに留意していく。</p> <p>(2) [○] 題目：「あん」 実施日：2019年11月7日(木) 映画鑑賞後、LHRで全員に感想文を書かせ、その内容も概ね好評であった。また今年度も生徒の意見(抜粋)を発表するなど、結果を還元することもできたため、次年度以降も継続していきたい。</p> <p>(3) [○] 今年度も肯定的な評価が68.6%と昨年度(67.4%)から向上したので、次年度も更に向上できるよう、教員の意識を更に伸ばし、意識調査の結果を詳細に分析していく。</p>
--	--	--	---

5 保健について	<p>(1) 生徒の適切な保健室利用の管理</p> <p>(2) 「保健だより」の定期的発行と掲示等</p> <p>(3) 感染症予防対策の実施</p>	<p>(1) 無用な来室者を減少させるとともに、保健室本来の病気やケガの生徒に対する対応を行う。 ア 生徒が授業中、保健室を利用する際は「保健室利用許可証」を持って来室させ、許可証の無い生徒は教室に戻させる。 イ 保健室の利用について原則1日1時間を徹底する。 ウ 保健室内での飲食禁止、携帯電話の使用禁止を徹底する。</p> <p>(2) 「保健だより」のHP掲載、教室掲示、生徒への配布等を通して、生徒に対する保健指導や日常生活、健康上の注意喚起を行う。</p> <p>(3) ア 「保健だより」による感染症予防の啓発を行う。 イ 校舎内複数箇所へのアルコール消毒液の設置等を通じ、感染症予防の意識向上に努める。</p>	<p>(1) 無用な来室者の減少と、病気やケガの生徒への対応に注力できたか。</p> <p>(2) 「保健だより」を定期的に発行・掲示できたか。</p> <p>(3) ア イ 感染症予防対策を実施することで生徒の意識や行動の変化がみられたか。 教育活動全般に関する質問調査の質問12「本校は生徒の健康や安全、命の大切さに関する指導をしっかりと行っていると思う。」の肯定的評価が60%以上。</p>	<p>(1) [○] 授業中の利用については、許可証の発行が必要なことや授業担当者の指導により、些細な理由で保健室を利用する生徒が減少した。日本学校保健会の「保健室利用状況に関する調査報告書(平成30年発行)」によると、高校生の1日平均保健室利用者数が全国では20.0人であるのに対し、本校は11.5人と大きく下回っており、保健室の健全な利用ができていと考えられる。次年度より新校舎への移転に伴い保健室の場所を周知するとともに、引き続き利用方法の徹底することにより保健室を健全に利用できるよう努めていく。</p> <p>(2) [○] 年度初めの予定通り、季節ごとの発行で、本年度は5回分(年度末のコロナウイルス対策での追加版を含む)を発行することができ、HP掲載や教室掲示等で視覚的に生徒に働きかけることができた。次年度も継続して発行し、生徒たちの健康面、生活面のサポートに努める。</p> <p>(3) [○] 保健だよりにインフルエンザをはじめとする感染症への予防策を掲載し、感染症予防の啓発を行うことができた。 体育授業後、また校舎に入る時など、多くの生徒がアルコール除菌を行っている姿が見られ、感染症予防への意識向上がはかれたと考える。今後も更なる感染症流行に備え、各自が予防策を実行できるよう努めていく必要がある。</p>
6 施設・設備について	<p>(1) 教育環境の充実に努める。</p>	<p>(1) ア ICT教育環境の整備についてタブレット型PCを先行導入する イ ICT教育に関する教員対象の勉強会を実施する。 本校のICT教育環境の整備については、施設的には前述の校舎の耐震対応にも大きく関係する問題であり、なかなか整備が進められない状況であったが、ソフト面等については、まず、2017年度にICT教育推進委員会を設置するとともに、テスト導入として、40台のi-Padを一定期間レンタルし、一部教員によるアクティブラーニングの試行を行い、良好な結果を得ることができたため、引き続き、タブレット型PC導入に向けた検討を継続するとともに、全教職員を対象とした「ICT推進勉強会」を実施し、教員全体の意識改革も同時に行う。</p>	<p>(1) ICT教育環境の整備と教員に対する勉強会が実施されたか。</p>	<p>(1) [×] ICT教育環境の整備については、ハード面は、新校舎への移転に合わせて整備していくように考えており、現状はソフト面の整備から検討し、昨年までに試用i-Padの導入や教員勉強会などを実施してきたが、今年度はICT教育推進委員のメンバーを中心にi-Padを用いた授業展開やクラスでの運用方法について検討を行った。 次年度は、いよいよ新校舎へ移転となるので、全教育職員のスキルアップに繋げられるような方策を検討するとともに、生徒にも還元できるよう、ICTに限らず教育環境の充実に努めていきたい。</p>